

「立ち上がる農山漁村」選定案概要書

取組分野：【交流】【食】

1. 都道府県、市町村 大分県日田市<sup>ひたし</sup>
2. 事業者名 大肥郷ふるさと農業振興会
3. 取組みの名称 多集落1農場方式と多彩な交流・ふれあい活動
4. 取組概要等

概要

平成7年に「中山間地域活力創造モデル事業」を活用し、地域住民代表による「大明地区デザイン会議」を設置し、地域ビジョンを作成、平成9年度から圃場整備事業に着手した。平成10年9月に地域水田農業の担い手として「共同営農部会」、平成12年には農産加工部会として「ももは工房」、平成13年には乾燥得調整部会「夜明ライスセンター」が活動を開始した。このような活動を続ける中、より持続的な集落の担い手が必要として、共同営農部会を柱に平成15年9月に「農事組合法人大肥郷ふるさと農業振興会」が設立された。

大肥郷ふるさと農業振興会

農事組合法人大肥郷ふるさと農業振興会、ももは工房、乾燥調整部会を統括している。地域農家、非農家、都市住民に参加を呼びかけ、「麦踏み大会」「農業体験塾（5回）」「小学校農業体験学習（2回）」等の各種交流事業を開催している。参加者は年々増加し、平成18年度の麦踏み大会では県内外から600人を超える参加者があった。参加者は地域との交流を持つことで、大肥郷の産品に愛着を持ち、密接なつながりを持った顧客となっている。

（農）大肥郷ふるさと農業振興会

地区内の地権者と、水田30ha以上を利用権設定しており、水稻、転作大豆、麦、飼料用水稻を作付けている。地産地消による地域の活性化を目指しており、収穫物の一部は「ももは工房」で味噌やきなこ、餅等に加工されている。

裸麦は地区内にある「老松酒造」によって地域ブランド焼酎「がまだす」に加工されている。また、ゴボウ、タマネギ、ニンジンなどの野菜を学校給食向けに出荷している。

ももは工房

地域で収穫された米、麦、大豆を利用した味噌、きなこ、餅、とうふセットなどの加工品を製造している。平成18年には味噌がモンドセレクションの銀賞を受賞するなど安全安心で美味しい製品を提供している。

乾燥調整部会

大肥郷ふるさと農業振興会を中心に、近隣の農家から委託された米（7,655俵）・麦（1,641俵）・大豆（543俵）の乾燥調整を行っている。品質の均一化、高品質化、乾燥調整の低コスト化を図っている。

活動の規模

項目	H14	H15	H16	H17	H18
生産量			47.4	55.5	43.5
（米）	解説	単位：トン			
生産量			49.1	65.6	93.9
（麦）	解説	単位：トン			
生産量(大			7.5	16.3	11.3
豆)	解説	単位：トン			

項目	H14	H15	H16	H17	H18
視察回数	27	40	40	40	50
解説	単位：回				
雇用者数		5	5	5	5
解説	単位：人 常時雇用3人、臨時雇用2人				
イベント回数	8	8	8	8	8
解説	単位：回 麦踏み大会・農業体験塾・小学校農業体験学習・その他豆腐・味噌体験随時				
イベント参加者	280	380	430	480	580
解説	単位：人 農業体験は各20人×5回				

#### 活用している地域資源

農業体験塾で大肥川河川敷の川遊び

地域内の水田及びそこから生産された米・麦・大豆

#### 地域活性化のポイント

**17集落の組織化により、多集落一農場方式を導入。機械の共同利用により、労働時間、生産費を削減し、低コスト化を図った。大豆+麦体系により、販売収入と転作助成金（高度利用加算+団地加算）による経営安定化を図った。**

園芸農家にとっては、ハウス等を団地化し、園芸ゾーンとして土地利用の効率化を図った。

**土地利用型作物は組織が引き受けることで収益性の高い品目に作業を集中することができ、収量、品質、作付け回数の向上により経営安定が図られた。**

農産物加工場「ももは工房」、地元酒造メーカー「老松酒造」で地元農産物の加工を行い、**高付加価値化と産地ブランド化。地産地消を推進している。**

作付けから収穫までの農業体験塾、麦踏み大会や加工体験教室の開催により、**都市住民との交流を行い、大肥郷産品の顧客を増やしている。小学生の農業体験学習は、野外教育としても大きな役割を担うなど、地域の活性化、結束強化にも役立つ取り組みとなっている。**

#### 事業の今後の展開方向

農事組合法人としては、将来的には現在の17集落のみならず、日田市全域を視野に入れた広域的な事業の展開を検討している。山間部と平坦地では、農作業時期にずれがあるため、効率的にオペレーターや農業機械の活用ができるとともに、その受益地においても低コスト化による所得向上と農地の持続的な保全が可能となる。

また、ふるさと農業振興会としても、将来的に農家民泊等を含めたグリーンツーリズム活動、野外教育活動をますます進めていく意向にあり、発展が期待されている。



〈麦ふみ大会の様子〉

